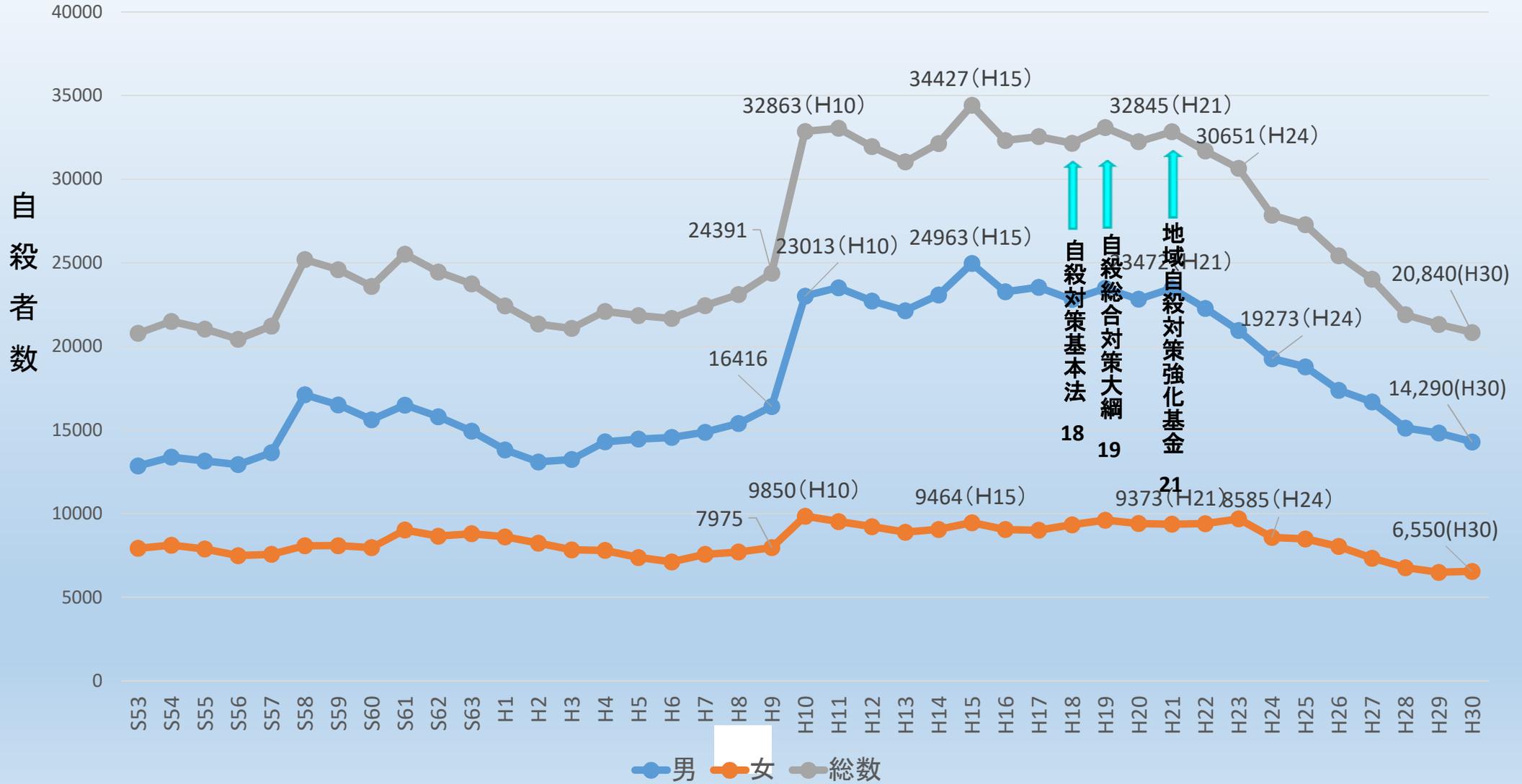


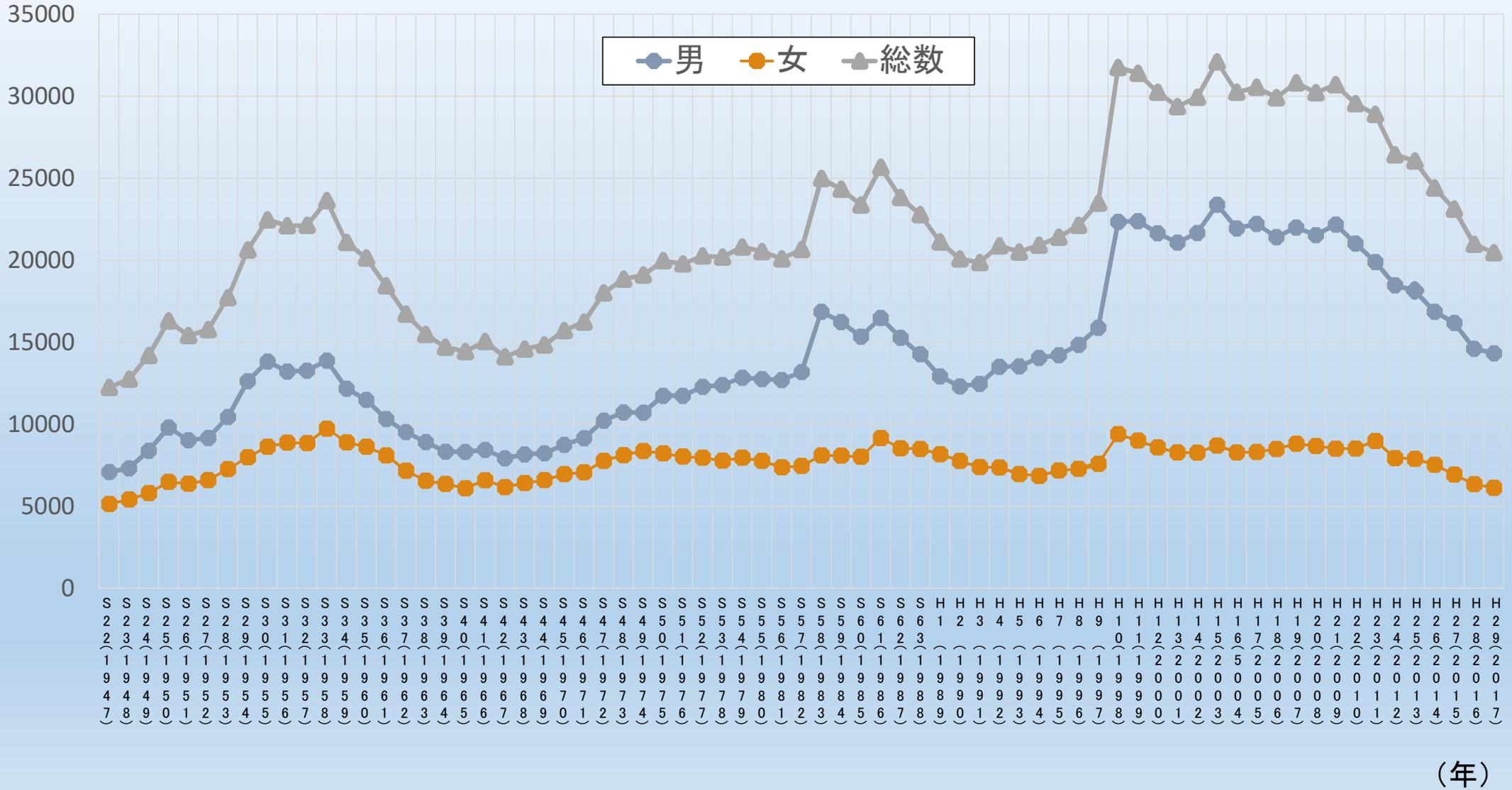
# 神奈川県における 自殺者の状況 (平成30年)

令和元年7月17日  
第25回 かながわ自殺対策会議

# 自殺者数の推移(自殺統計)



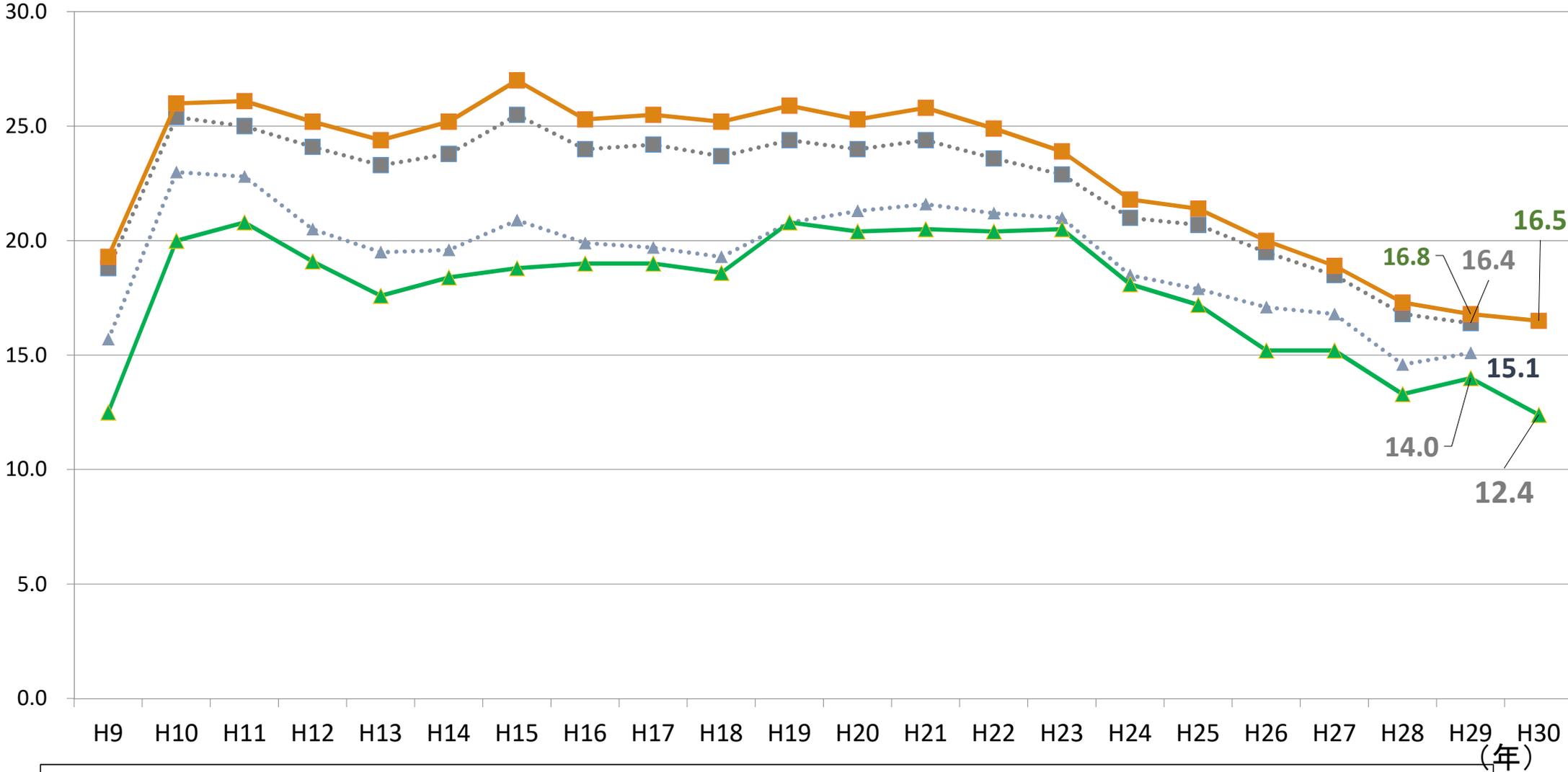
# 自殺者数の長期的推移(人口動態統計)



(年)

# 国、神奈川県自殺率(人口10万対)の推移(H9~H30)

(率)



国人口動態

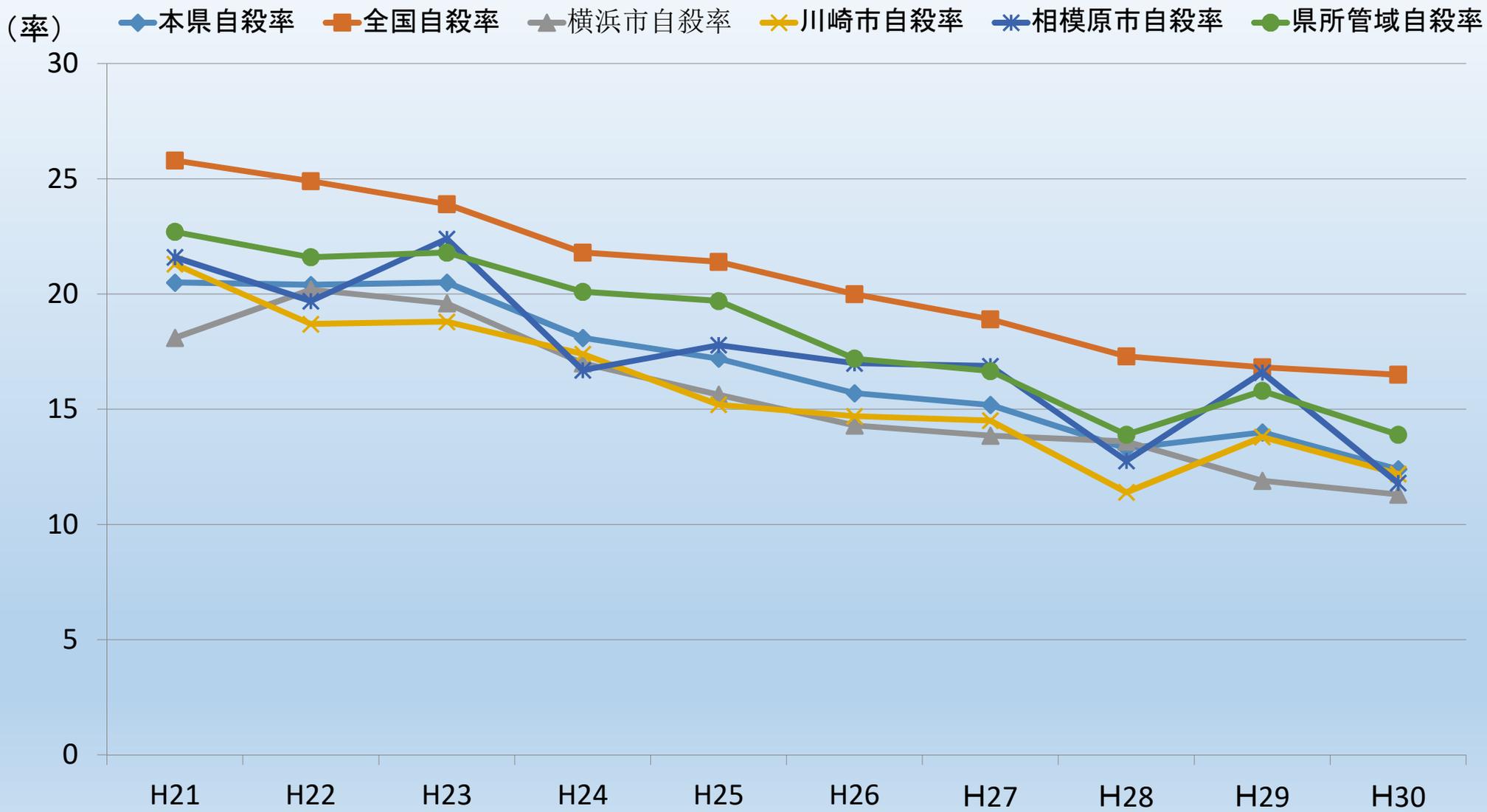
全国警察統計

県人口動態統計

県警察統計

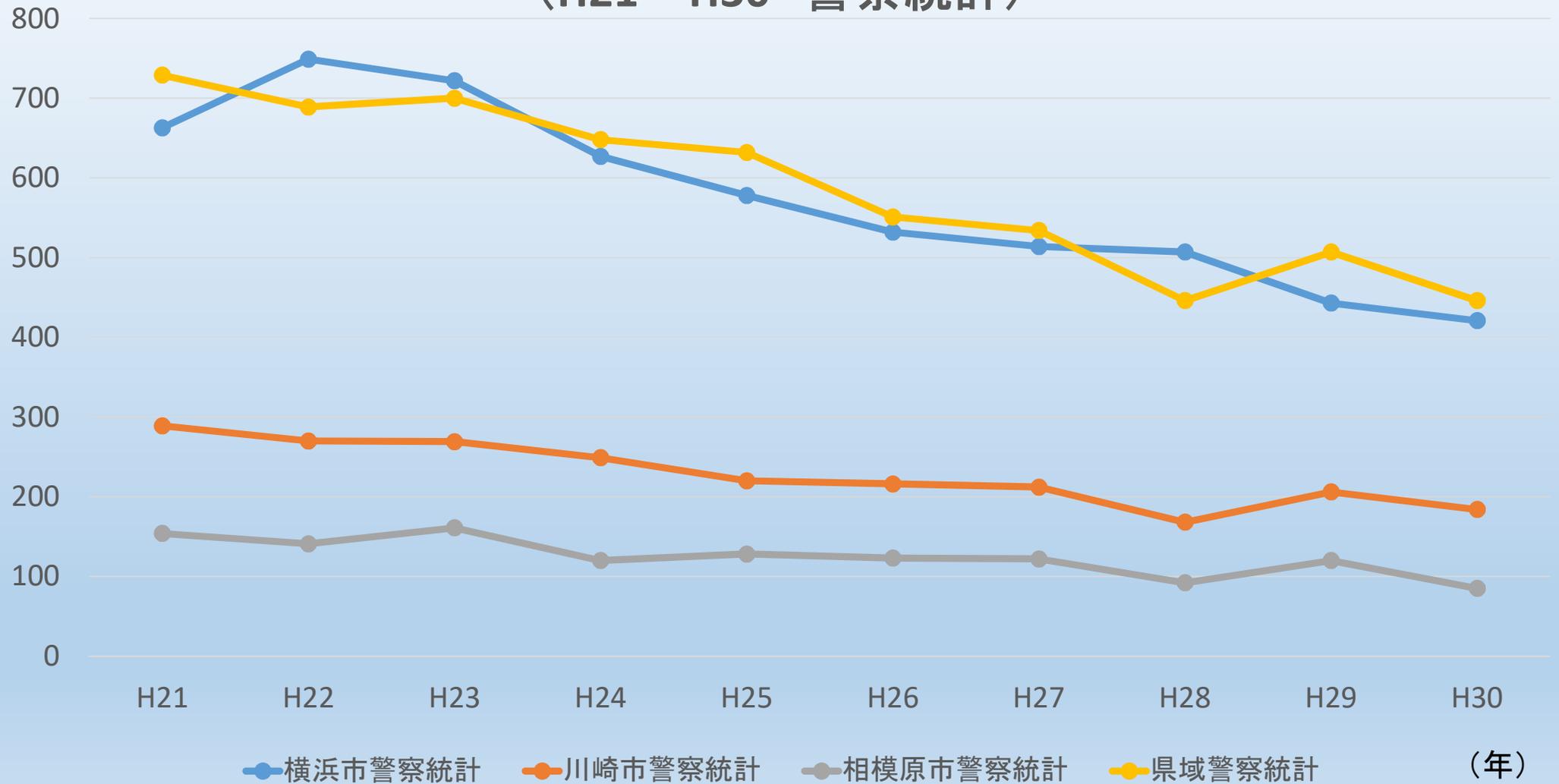
(年)

# 横浜、川崎、相模原、県域の自殺率の推移 (H21~H30警察統計)



(人)

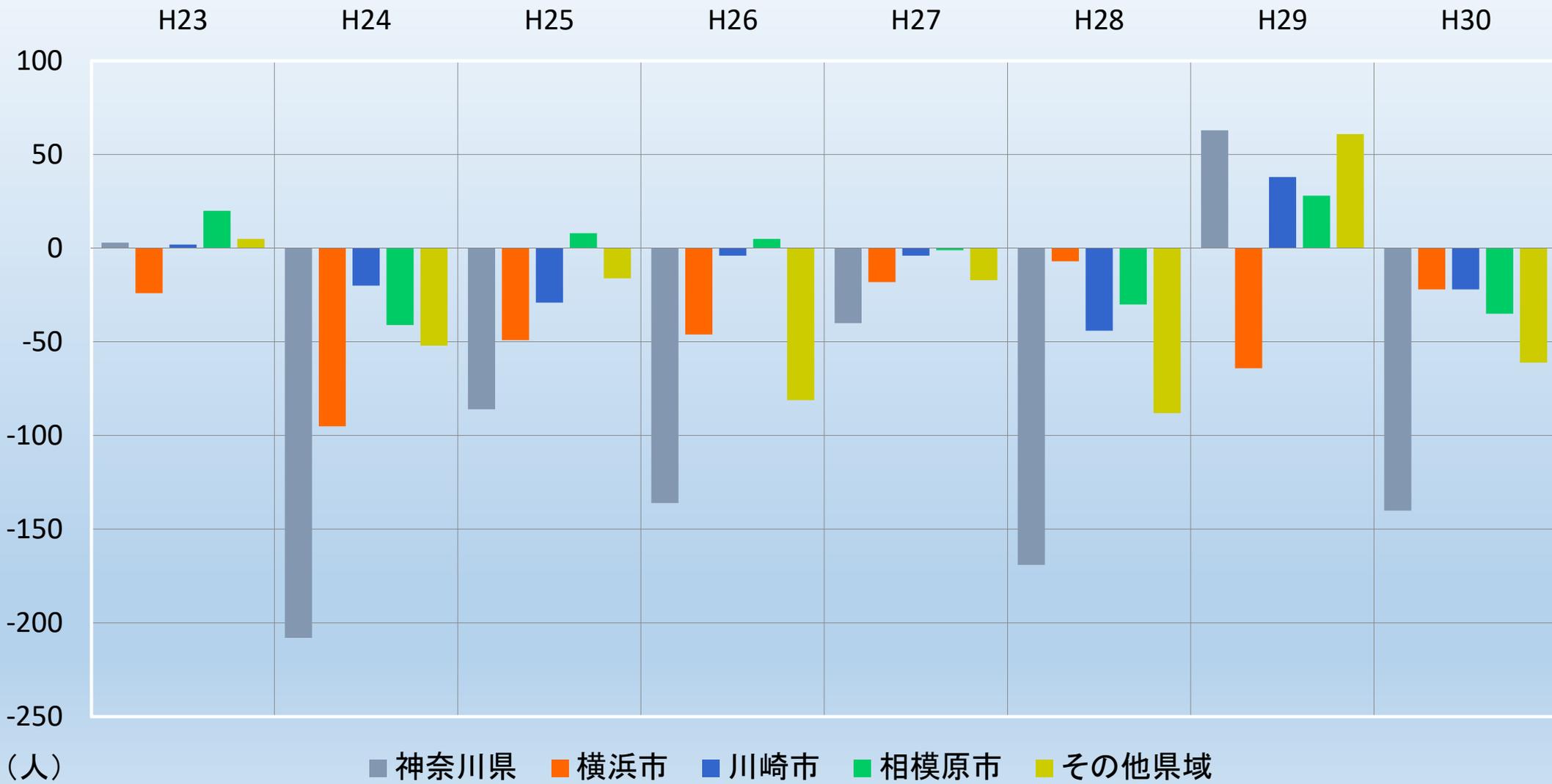
# 横浜市、川崎市、相模原市、県域の自殺者数の推移 (H21～H30 警察統計)



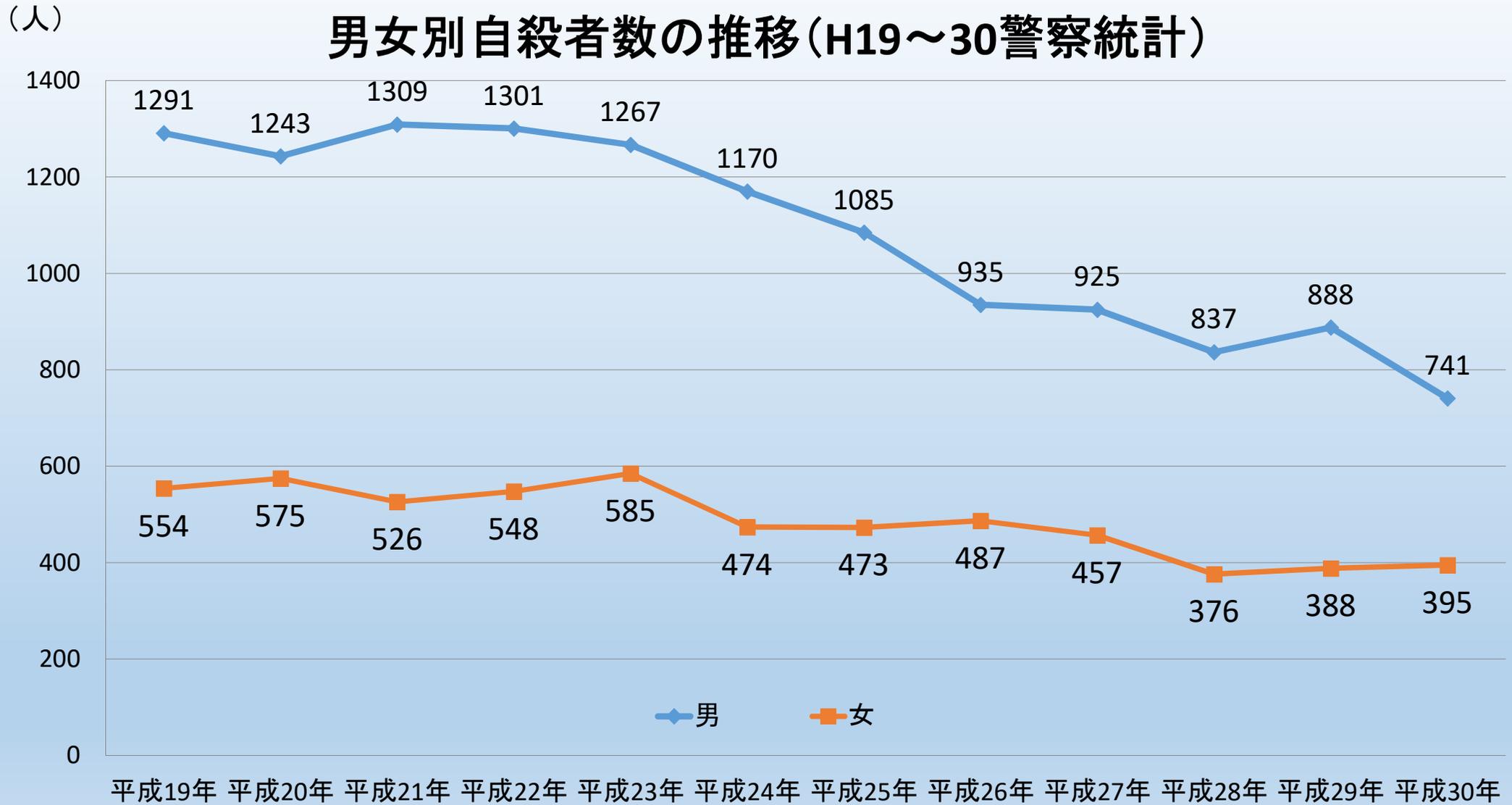
(年)

# 4縣市別対前年減少数の推移 (H23~H30警察統計)

(年)

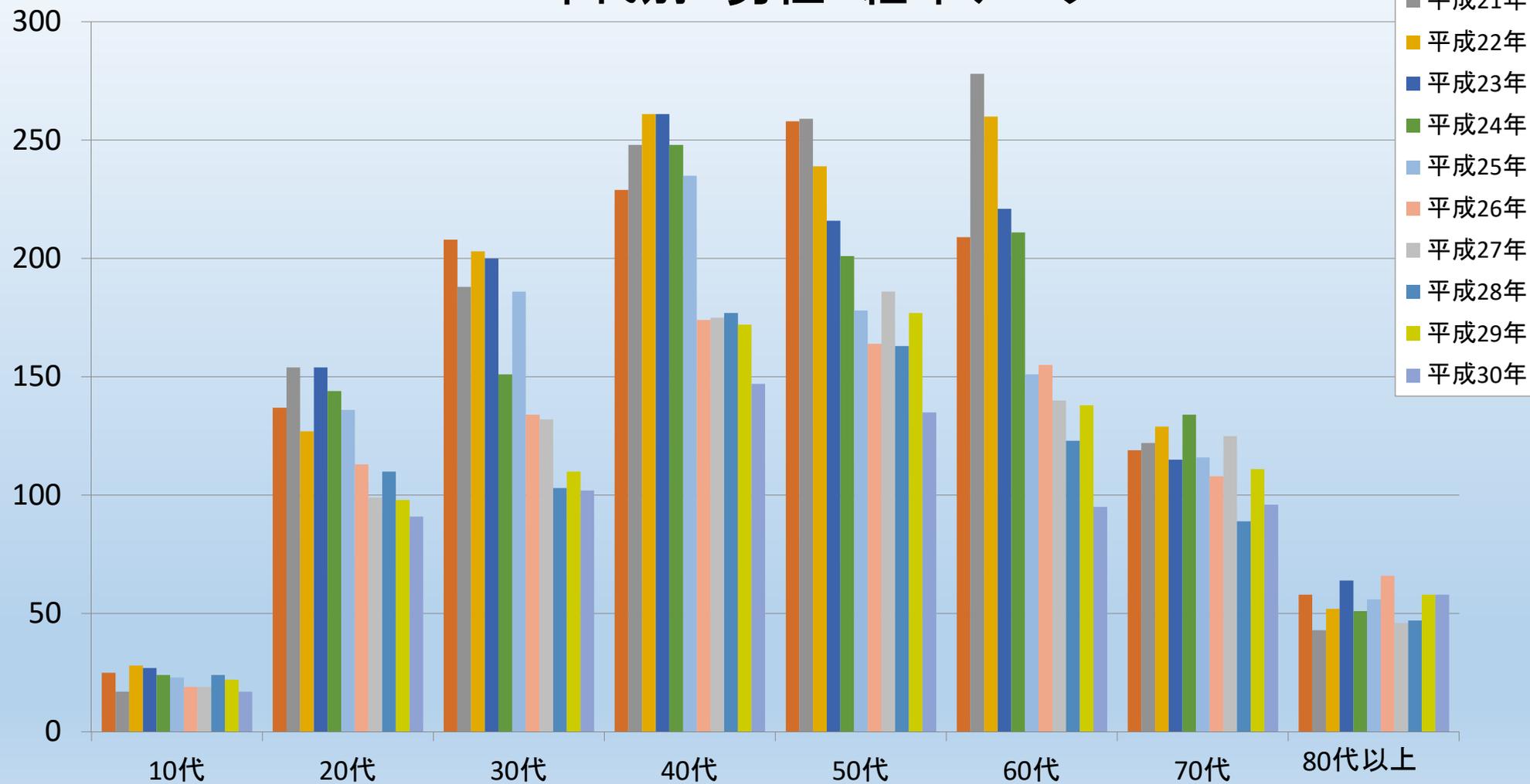


# 男女別自殺者数の推移(H19~30警察統計)



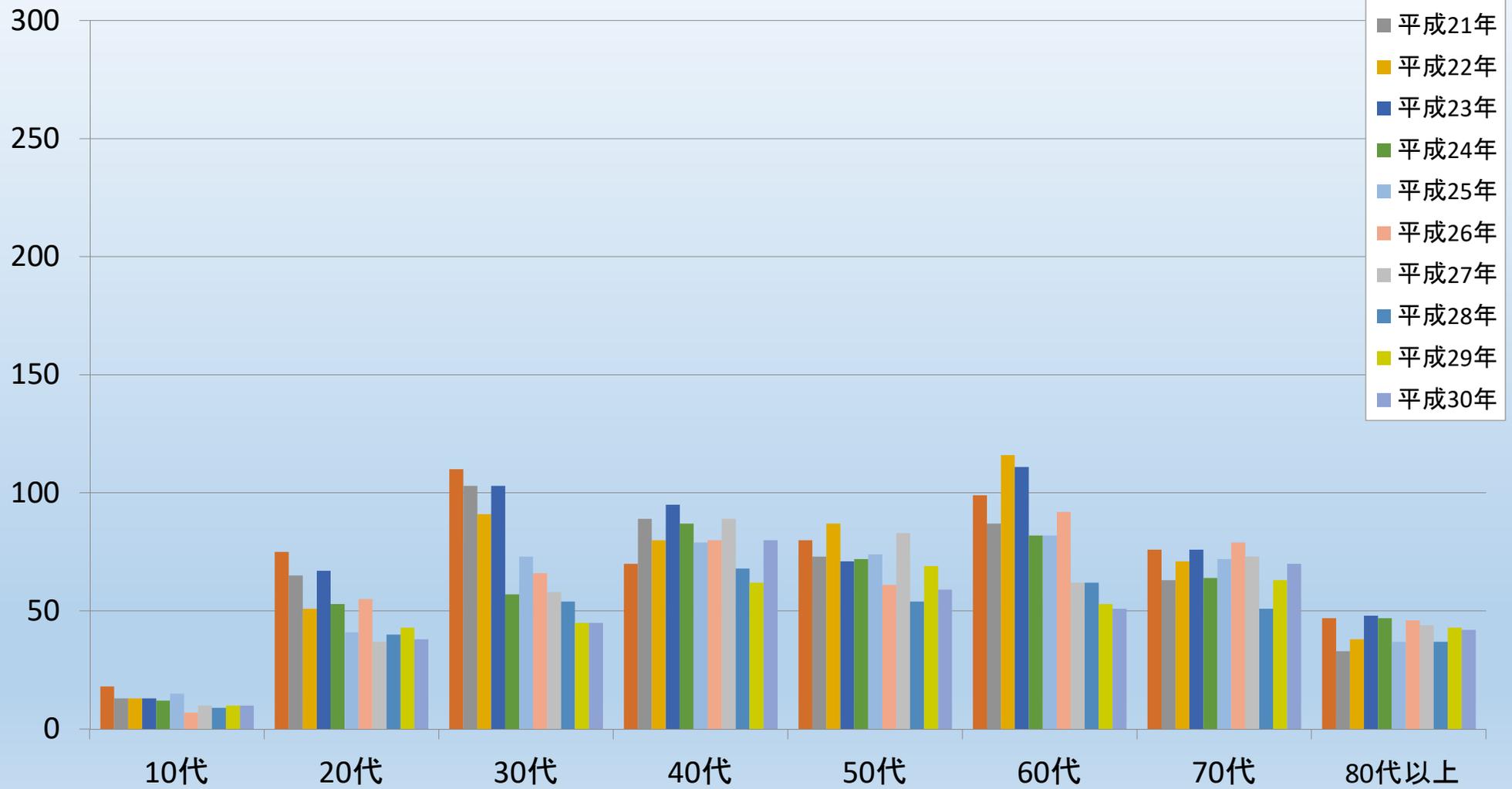
(人)

# 年代別 男性 経年データ



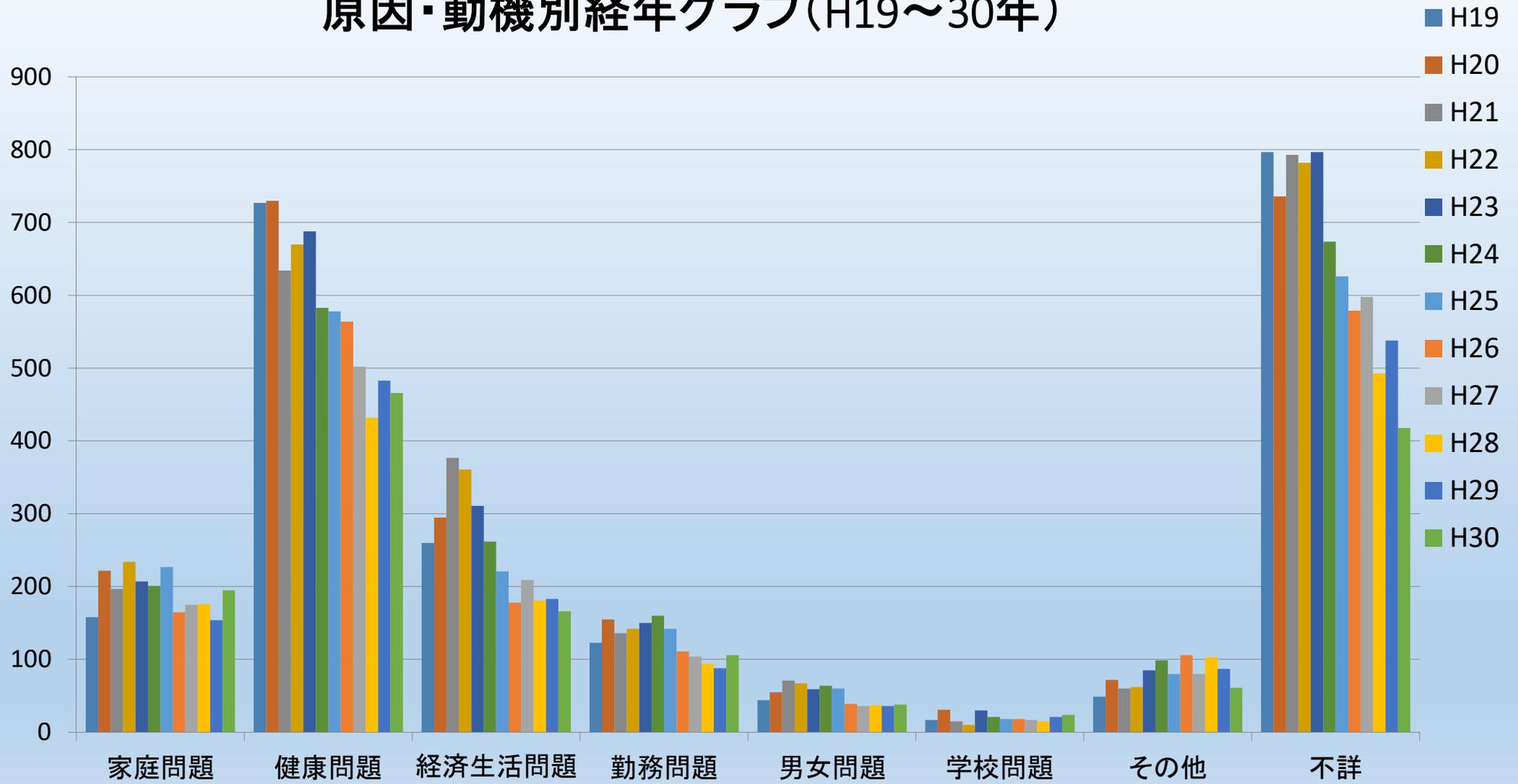
(人)

# 年代別 女性 経年データ



(人)

# 原因・動機別経年グラフ(H19~30年)



# 平成30年の年代別3大原因・動機とその割合

(警察統計、神奈川県) ※原因・年齢の不詳を除く (全年代は不詳を含む)

年代	第1位		第2位		第3位	
	原因	割合	原因	割合	原因	割合
10代	学校問題	35.1%	健康問題	13.5%	家庭問題	10.8%
20代	健康問題	18.5%	勤務問題	13.9%	家庭問題	11.0%
30代	健康問題	25.7%	家庭問題	16.8%	経済・生活問題	11.5%
40代	健康問題	29.9%	経済・生活問題	13.8%	家庭問題	13.2%
50代	健康問題	29.0%	経済・生活問題	16.9%	家庭問題	14.0%
60代	健康問題	36.0%	経済・生活問題	13.8%	家庭問題	13.2%
70代	健康問題	45.8%	家庭問題	11.5%	経済・生活問題	5.7%
80代以上	健康問題	46.6%	家庭問題	12.9%	その他	6.0%
全年代	健康問題	31.6%	家庭問題	13.2%	経済・生活問題	11.3%

# 自殺の状況 (平成30年警察統計)

	自殺者数		自殺率	
	低値	高値	低値	高値
①	鳥取県80	東京都2244	徳島県12.0	山梨県24.8
②	徳島県89	大阪府1275	神奈川県12.4	青森県22.2
③	島根県113	埼玉県1223	京都府13.2	和歌山県21.9
④	福井県134	神奈川県1136	岡山県・ 石川県 14.1	岩手県21.8
⑤	高知県135	愛知県1066		新潟県21.1
全国	20, 840		16. 5	

# 自殺の状況 (平成29年人口動態統計)

	自殺者数		自殺率	
	低値	高値	低値	高値
①	鳥取県91	東京都1936	岡山県14.0	秋田県24.4
②	高知県109	大阪府1443	奈良県14.1	岩手県21.0
③	島根県113	神奈川県1354	京都府14.1	青森県20.8
④	福井県113	埼玉県1175	愛知県14.4	愛媛県20.3
⑤	徳島県119	愛知県1054	滋賀県14.5	福島県20.2
		⑨	神奈川県15.1	
全国	20, 465		16. 5	

# 自殺の状況 (平成30年人口動態統計概数)

	自殺者数		自殺率	
	低値	高値	低値	高値
①	鳥取県82	東京都2021	徳島県12.4	和歌山県21.2
②	徳島県91	大阪府1463	石川県12.9	青森県20.6
③	福井県106	神奈川県1293	京都府13.3	岩手県20.5
④	島根県108	埼玉県1177	岡山県13.5	秋田県20.3
⑤	佐賀県125	千葉県1028	愛知県13.7	福島県19.7
		⑧	神奈川県14.4	
全国	20, 032		16, 1	

# 今後の数値目標（国）

平成38年までに先進諸国の  
現在の水準まで減少させる  
ことを目指す

平成27年（人口動態統計）自  
殺死亡率 18.5 を平成38年  
までに 30%以上 減少させる  
 $18.5 \times 0.7 =$  目標値 13.0

以下

## • 先進諸国の自殺率

フランス : 15.1 (2013)

アメリカ : 13.4 (2014)

ドイツ : 12.6 (2014)

カナダ : 11.3 (2012)

イギリス : 7.5 (2013)

イタリア : 7.2 (2012)

神奈川県 : 14.6 (平成28年)

# 今後の数値目標（神奈川県）

（人口動態統計）自殺死亡率を平成28年から5年間で 15%以上  
減少させる

（平成33年に 12.4以下 にする）

$$\text{平成28年 } 14.6 \times 0.85 = \text{平成33年 } 12.4\text{以下}$$

# 年代別死因

(厚生労働省人口動態統計月報年計平成28年)

年齢	1位	2位	3位
0～4	先天奇形等	呼吸障害等	不慮の事故
5～9	悪性新生物	不慮の事故	先天奇形等
10～14	悪性新生物	自殺	不慮の事故
15～19	自殺	不慮の事故	悪性新生物
20～24	自殺	不慮の事故	悪性新生物
25～29	自殺	悪性新生物	不慮の事故
30～34	自殺	悪性新生物	不慮の事故
35～39	自殺	悪性新生物	心疾患
40～44	悪性新生物	自殺	心疾患
45～49	悪性新生物	自殺	心疾患
50～54	悪性新生物	心疾患	自殺
55～59	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患
60代以上	悪性新生物	心疾患	肺炎

# 諸外国の15～34才の死因順位

	1位	2位	3位
日本	自殺	事故	悪性新生物
フランス	事故	自殺	悪性新生物
ドイツ	事故	自殺	悪性新生物
カナダ	事故	自殺	悪性新生物
アメリカ	事故	殺人	自殺
イギリス	事故	自殺	悪性新生物
イタリア	事故	悪性新生物	自殺
韓国	自殺	事故	悪性新生物

# まとめ

- 昨年の自殺は、（警察統計上）

国で 実数20,840人、自殺率16.5 に減少した。

神奈川県では、実数1,136人、率で12.4 に減少した。

- 原因・動機として2番目に多く（不詳を除く）、不景気との関連において重視されていた経済・生活問題が減少して行くにつれ、3番目の家庭問題との差が縮まり、昨年は順位が逆転することとなった。
- 自殺数のピークを迎えてから後、国は15年の間に、神奈川県は7年の間に、約4割減少した。